

Alternative Systems Study Bulletin

第11巻第4号

(2003年10月20日)

「社会病理の解明」についての議論

1. ニュースタート掲示板より
2. 商品、貨幣、資本による意志支配への疑問
3. 「社会の幅広い価値観」について
4. 「引きこもり」をどう捉えるか
5. 引きこもり当事者からの疑問
6. 発想の違いが出てきた
7. 一応の結幕
8. 一応の結幕への補足
9. 次のステップへ

後記

編集 境 毅

連絡先 〒600-8691 京都市下京区東塩小路町 京都中郵私書箱 169 号 貿易研究会

ホームページ <http://homepagel.nifty.com/office-ebara/>

メール kyw04500@nifty.ne.jp

会費 正会員 : 年間 10 10万円

賛助会員 : 年間 10 3万円

購読会員 : 年間 10 1万円

振込先 □座名 : 資本論研究会

(郵便振替) □座番号 : 01090-5-67283

「社会病理の解明」についての議論

1) ニュースタート掲示板より

9月18日にニュースタート事務局関西のHPの掲示板に「社会病理の解明」という以下の内容の書き込みをしました。

「ニュースタートでは引きこもりの要因に社会病理があることを強調し、その解決を模索しています。社会病理について、色々な症状についてはたくさん挙げられています。でもそれらの症状の大元についてはまだ確たる見解が示されていないようです。ここではこの大元の解明を目指したい。

私はもともとこの大元が、商品経済が人の意志を支配するシステムであることから発していると睨んでいて、色々論文も書き、またこのHPの更新前の掲示板にも書き込んだのですが、皆さんに納得してもらえるようなものに仕上げることはできなかったと自覚しています。ところがこの掲示板で誰かが紹介していた田中俊英さんの論文を読んでヒントをもらいました。

今から田中さんの論文について批評しますが、これは決して田中さん個人を批判しようと意図するものではありません。単なる素材として取り上げるだけです。

田中さんは『いのちジャーナル』02年7・8号掲載の論文「ひきこもり」流行の裏側、でフリースクールの批判を行っています。その要点はフリースクールを運営している人たちが社会変革という見地から教育政策を変更する為のイデオロギーを子どもたちに洗脳し刷り込んでいるというところにあり、フリースクールの思想が「社会の幅広い価値観ではなかった」というところに置かれています。

私はこの考えに大きく引っかかりました。「社会の幅広い価値観」っていったい何？私の見るところではこの価値観こそ商品や貨幣や資本に意志支配されることで、人の心に生み出されるものなのですね。この自分のごく当たり前の価値観が、ある種のマインドコントロールの産物であるにもかかわらず、人々がそれに気づいていない、これが社会病理の大元ではないでしょうか。もしこの事に気づいておれば「社会の幅広い価値観」もイデオロギーであって、この点ではフリースクールの思想と同等なんですね。田中さんは決してイデオロギーであるという事で批判が済んだとは考えないでしょう。」

(9/18)

昨年私は何回かこの種の書き込みをして見ましたが、論点をズラす書き込みがなされ、そのままになる場合が多かったのですが、今回は2週間たらずで、85の書き込みがあり、内容も随分かみ合ったものが多かった。それで、書き込まれたものを素材にして、論点の整理をすることにします。なお、書き込んだ人達は、ほとんどハンドルネームを使っていますが、ややこしいので、ここでは順番に、A, B, C・・・という記号で紹介します。

2) 商品、貨幣、資本による意志支配への疑問

まず議論になったのは、私が田中さんが述べている「社会の幅広い価値観」とは「商品や貨幣や資本に意志支配されることで、人の心に生み出されるもの」と書いたことへの反論と疑問でした。

Aさんからは、次の質問が寄せられました。

「境さんは、引きこもりとは社会病理に由来し、その大元は商品経済である、とおっしゃいますが、社会があるところに商品経済がない、ということは可能ですか？概念を拡大して、換言すると、『交換』のないところに社会を構成することは可能ですか？」(9/20)

この疑問と質問のうえに、さらにAさんは、自らの積極的な意見を次のように述べました。

「社会に生きるということは「交換」が不可避であり、商品経済がなくなったところで本質は変わらないということです。つまり、社会とはすべからず「病理」を内在する。僕がここで言う「病理」とは、規範に対置する、もしくは規範から排除される者が「異常・病理」と言われるということではなくて（これはフーコー的ですが）、「病理」が社会の絶対必要条件であり、構成要素である、ということです。排除される「病理」ということではなくて、常に内在するものとしてです。」(9/20)

Aさんによれば、社会は交換（商品交換でなくとも交換はある）なしには成立しないが、交換は、レヴィ・ストロースが発見した未開社会の「女性交換」が近親相姦の法（精神分析ではこれを受けることを去勢という）を機能させており、交換による去勢（強制）があって、これ自体が社会に病理を内在させているのではないか、ということでした。そして、精神医学の歴史をふりかえって、次のような精神病論を展開しています。

「無論、目の前の『問題（その社会文化的な背景で良しとされないこと）』を解決するよう努力するのが、今の時代を生きる私たちの選択となるのですが、精神医学・精神症候学の歴史を見てみると、時代や文化によってある「病気」が急に発生して、流行り病になる（生物学的な病気はそうですが）のではなく、社会に参入しているからこそ持つ傷口がどのような表現方法を見つかるかがその時代時代で流行る「症状」である、と考えるほうが説得力がありそうです。もちろんこれだけというわけではなく、その表現方法をその時代の社会がどのように評価するかが、症状の価値とあり方を規定することもあるでしょう。」(9/20)

これとは別に、Bさんは別の視点から、次のように述べています。

「もし、ひきこもりの大元が『商品や貨幣や資本に意志支配されること』だとしたら、同じシステムの自由主義経済の国でも同じようにひきこもりが多発するはずですが、ところが日本のみに極端に多く、他の国では少ない。これは何を意味しているのでしょうか？逆説的に言えば、大元だと言われる『商品や貨幣や資本に意志支配される』ではないと言うことです。同じであれば他の同じようなシステムの国も多発するはずですが、そうでなければ説明がつかない。私は、その大元が日本独特の社会病理にあると思っています。」(9/20)

Bさんはこのあと、日本経済の社会病理として、幼い時から「心を育む」機会が少なく、心が未発達のまま成長することに求めています。

さて、これらのやりとりについて、Cさんが整理してくれました。その論点は、①現代社会は商品経済抜きには成立しませんが、今日の問題は、経済のグローバル化が商品経済を肥大させ、その歪みを各所に出てこさせていること、②「心を育む」機会が少なくなったのも、商品経済の肥大化が原因であること、③今日の競争社会で競争し続けていかないと生き残れないと思い、必死に競争していると、商品や貨幣や資本に知らず知らずの間に支配されている、④引きこもりが日本特有の現象かどうか疑問があるが、欧米では、別の症状が出てきているのではないかと、といったことでした。

ところでAさんの商品経済がない社会はありうるか、ということについて、私は次のように答えています。

「何かいっぱい書き込みがあって対応するのは大変ですがとりあえず、Aさんの質問から。

人類が社会をつくってから2万年として貨幣ができたのは4千年、労働力が商品になって（雇われて働くという事）高々400年、日本で本格的に商品経済が生活の隅々にまで行き渡ったのは30年くらいではないでしょうか。貨幣のなかった社会の方が長かったと思います。貨幣がなくとも交換は可能です。

地域通貨は支払決済システムの共同管理だというのが私見です。つまり今の銀行制度の発展形態ですね。みんなが口座を持っていてそれで取り引きを決済できれば貨幣はいりません。利子を取らず取り引きの尺度は労働時間にすればいいのです。銀行が私有している口座を公有化すればこの試みは実現の道が開かれます。今オンラインシステムで全ての銀行口座がつながっています。口座をそれぞれの銀行が私有しているという現実が不経済になって銀行の統合が進みました。今の銀行は企業に貸しつけるという本来の業務すらできなくなっているのですから、貨幣に代わる支払決済システムを社会に提供することで、その歴史的使命をおえるべきというのが私の考えです。これは皆さんに同意してもらおうとは考えていません。でも21世紀後半にはこうなっているでしょうね。この予言は10代の皆さんに判別してもらいましょう。」(9/21)

次に引きこもりを社会病理に帰すべきではない、という意見も提出されました。Dさんは次のように述べています。

「最近俺こう思う。

確かに引きこもりの発生する最初の原因としていろんな外部の力が働くかもしれない。

でもそれは普通に生きていけばあたりまえの事。

挫折、恫喝、激励、叱咤、嫉妬、失恋、裏切り、敗北、孤独 etc..

でもそんなのはあって当たり前。それがあるから社会なのであり、人間との共同生活が成り立つ。何も嬉しいことや幸せばかりがあるのが社会でも共同生活でもない。

ただ確かに耐えがたいこともあるだろうし、俺も味わったような失望感から自分を閉じてしまうことにだってあるだろう。でもそれにしても、世の中の全ての人間が味わっている、当たり前の出来事なんだよ。

その出来事を長期化して複雑にしているのは社会や親や学校ではない。自分自身である。それを回りのせいにしていて解決しないんだってね。

そりゃそういう言い方していれば楽だし簡単だよ。でもそれを否定するってことはまったくもって社会であり共同生活ってものを否定するのと同じある。本当はそこに留まることを決意している自分が長期化の原因であるというのに。

何も怖がることはない。当たり前のこと。自分達が批判し嫌う人たちでもそういう出来事があっても、乗り越えてきたんだ。親も教師もまわりの人たちも。

何も特別なことなんてない。普通の人だよみんな。それでも乗り越えてきたんだよ。そしてその乗り越える上で最低限必要だったのは、回りの人であり社会であり、そして自分の決断である。

周りや社会を否定するって事は、それらも否定することで、俺からしたら変ろうとする自分を望んでいない！っていう風にも捉えられる。

はっきり言う。社会も人も捨てたもんじゃない。たとえ空白の時間があってもそれを茶化し否定する人ばかりではない。それら乗り越えようとする意思さえあれば、誰もが助けてくれるだろうし、茶化し否定しようともしないだろう。そしてその意思さえあれば困難も苦難も乗り越えられるように

なるよ、絶対。」(9/21)

この意見についての私見は次の通りです。

「Dさんの書き込みについて、わたしは引きこもりの悪循環について斎藤環が強調していることにあまり注意していないことが気になっています。あと社会批判が責任回避という意見も。」

わたしの見るところ、引きこもりの人たちの行為そのものは紛れもない社会批判なのですね。ところがこの掲示板でもそうですが、頭の中は非常に体制的な見解に占領されています。わたしにはこれが悪循環の要因のように見えたのです。自分の行為にふさわしい思想を持ち給え。これがわたしのメッセージです。そうすることで悪循環を断ち切ることができるのではないのでしょうか。Dさんの場合、周りの人と同じになる事で悪循環が断ち切れるといているので、わたしとは逆ですね。Dさんには逆の道もある、といたい。」(9/23)

引きこもりの要因について、色々意見があっているのですが、Dさんの言うように、引きこもりは自分自身で解決できる問題であれば、何もサポートする必要はないのですね。自分自身で解決できない、という現実があるから、親の会や、サポートする団体が生まれてきました。もうすでに引きこもりは社会病理の症状として現れてしまっているのですね。これに対して、周りや社会は捨てたもんじやない、といて社会復帰出来る人はいいのですが、出来ない人に対して「周りのせいにするから解決しない」といっても仕方がないように思います。私は、引きこもりという行為自体がある種の社会批判である、という事実と向き合う人々と活動を共にしたい。

3) 「社会の幅広い価値観」について

Eさんの書き込みを皮切りに、価値観についての議論が進みました。これはそのまま紹介しましょう。

Eさんは次のように問題提起をしました。

「田中俊英氏の『社会の幅広い価値観』とは、特定の価値観のことをさすのではなく、成熟社会における『価値観の多様化』のことをさしていると思われます。つまり、近代法治国家では、自由と平等の原理に基づき、法律に違反しない限り、形式的にはどんな生き方や価値観をしてもかまわないということです。法的に価値選択の自由が許されているという事実は、個人が多様な生き方を選択する大前提です。前近代社会では、個人の自由な価値選択は許されませんが、近代社会では、法的に個人の自由選択を許されているので、多様な価値観が乱立しており、正しく幅広く右から左まで多様な物の考え方の人がいるということだろうと思います。」

従って、田中俊英氏は、フリースクールが『社会の幅広い価値観』つまり『価値観の多様化』を否定する要素があると言っていることとなります(9/21)

「しかし、フリースクールが一つの価値観に凝り固まるのは、ある意味、当たり前です。というのは、フリースクールの創始者は何らかの価値観や理念に基づいて一つの団体を運営するからです。価値中立は幻想ですね。ただし、憲法上、所属団体選択の自由は、個人に保証されています。従って、一つのフリースクールが自分の価値観にあわないのなら、別のフリースクールを選択すればすむ話です。それ自体が価値観の多様化のあらわれです。不登校やひきこもりの若者が所属団体を選択する自由がないというもおかしな話ですが、実際、所属団体から会費をとられ有料サービスを受けているとしたら、経済力に拘束されることになり、選択の幅は狭まります。貧乏な不登校児やひきこもりは、団

体からサービスを受けることができないという不平等性が出てきます。そういう意味では、純粋ボランティアでのみサービスを提供している団体だけが、入会離脱の自由選択性が高くなり、価値観の多様化を体現することになるでしょう。境さんが指摘する商品経済の価値観が蔓延すると、つまり不登校やひきこもりの方からお金を支払わせ、その対価としてサービスをする団体ばかりだと、選択の自由はなくなります。関西系のNPOやフリースクールでも、ほとんどのところが子供の家族から金をとっていると思います。社会的弱者から金をとるという商品経済は確かに腹が立ちますね。商品経済が結果的に選択の自由を奪うことになる側面はあると思いますね。

本当に各団体が若者のことを思うなら、若者が金銭的なことに煩うことなく、好きな価値観の団体を選択できる自由を確保してやるのが大切だと思います。

ただし、価値選択の自由よりも、共同体主義のほうが、ひきこもりのかたには居場所になると考えるなら、一つの思想で全体主義的にやってもいいかもしれません。」(9/21)

これに対して、Cさんがコメントをはさみました。

「Eさんのおっしゃるとおり、フリースクールがある種の価値観に傾斜するのは仕方が無いことでしょうね。田中氏のいう「幅広い価値観」も、ある一定の価値観を示しているように思えます。」

価値選択の自由は重要だと僕も考えます。ただし、価値を選択するためには個々人の自立が必要です。自立を否定して『価値観』を語ることはできないでしょうね。

商品経済が価値選択の自由を制限しているという考え方にも賛成です。そこで境さんの言われる地域通貨の導入が検討されているんですね。地域通貨に関しては『人間塾の開講』スレッドに簡単な説明を書きましたので、よろしければ参照してみてください。」

僕も地域通貨に関わったことがきっかけでニュースタートと出会いました。つまり物の交換が、人間の交感になってしまったんですね。」(9/22)

Eさんは、次のように応答しました。

「確かに田中氏のいう「幅広い価値観」、つまり「価値観の多様化」それ自体が成熟社会(後期近代産業社会)のイデオロギーであり、一つの価値観とも言えますね。規範として価値観の多様化をひきこもりに押し付けることで、ひきこもりに社会的圧力をかけています。つまり、シンプルな共同体への一元的所属を悪として否定しています。」

自由選択の主体つまり、自立的自我を可能にする社会的条件の研究が必要です。田中俊英氏は、完全な自己選択性を幻想として退け、コミュニケーションのなかでの相対的な自己選択性を提唱しています。自立の概念は微妙に違います。」(9/22)

Cさんの言う「価値を選択するためには個々人の自立が必要です。自立を否定して『価値観』を語ることはできないでしょうね。」という発言に呼応してEさんは「自由選択の主体つまり、自立的自我を可能にする社会的条件の研究」の必要性の提起がありましたが、Eさんは、別のところで、価値選択の自由と共同体主義を対置しているように、価値選択の自由ということを原則にはしていないようです。Eさんは価値中立を幻想だとも述べています。だとしたら、いまは、自立的自我は存在していない、という判断をしていることとなりますね。Cさんが「個々人の自立」というときも、いまそうになっている、ということではなく、「商品経済が勝ち選択の自由を制限している」と述べています。

他方で、個々人の自立が今の社会にげんにある、という考え方が「社会の幅広い価値観」となっているのではないのでしょうか。だから田中さんも、フリースクールを「イデオロギー」というレッテルで切れると考えたのですね。個々人の自立が本当に実現できておれば、政治的イデオロギーの役割は

なくなるでしょうね。私の社会病理の大元説は、実は、大多数の人々は今の社会で個人の自立が実現されていると思込んでいるが、これは実は、商品や貨幣や資本によるマインドコントロールの産物なのだ、と言いたかったのです。

とまれ、本当に個人の自立が可能な社会なら、今の社会は悪くはないし、引きこもりは、個人の問題だ、ということになります。ところが、引きこもりの人たちは、個人の自立という「社会の幅広い価値観」を身につけているのに、現実の社会では、個人の自立など幻想ですから、この価値観を実現できる生活の場がない、これがジレンマとなって、引きこもりの悪循環をもたらしているのではないのでしょうか。

4) 「引きこもり」をどう捉えるか

価値観をどう捉えるか、という議論は、「引きこもり」をどう捉えるか、という議論に移りました。また、紹介から始めます。

Aさんは、次のように述べました。

「上でEさんが言うておられる『価値選択の自由のなさ』は、僕が最初に意見した『交換の不可避性』と重なるのではないかと勝手に考えておりました。確かに憲法上で価値選択の自由はほぼ認められているわけですが、憲法の選択の自由はないわけです(法のない社会はありません)。『自由』を享受するためには、まずもって法に従う手続きが不可欠なわけです。自由を得るためには、まず不自由(法に従うということ)というステップを踏まざるをえないわけです。

哲学のことはよくわからないのですが、サルトルは「自由であるとは不自由である」というようなことを言ったそうです。自由であるということは責任が全て自分にかかるわけですから、不自由極まりないというわけです。

『引きこもり』はサルトル的な自由を享受しているのではないのでしょうか?引きこもりは自由な人です。不具合ではありますが、自分の権限でもって何をするか選択し、引きこもっています。何もしない自由、社会参加をしない自由、というわけです。これは特に個人の引きこもりの発生においてそうではないかと言っているだけであって、それに『引きこもって10年経ってしまっただけで今は出たいけど出る事ができない』という場合でさえそう言えるのではないかと、思います。『出る』という他人の叱咤激励には耳を貸さない若者がほとんどですから。」(9/22)

「以上のように考えると、『自由選択の主体つまり、自立的自我を可能にする社会的条件の研究が必要だ』というEさんの言葉は別の解釈ができるのではないのでしょうか、しかもほとんど逆の意味に。

つまり、引きこもりとは『自由選択の主体』で『自立的自我』を持つ者のことです。経済的自立とかを言っているのではないですよ。精神において、です。ですので、引きこもりを辞めさせるには(あまり良い表現ではないですが)、自由と自立的自我を取り払う必要があります。他人に依存しろ、ということ。親以外の人に依存できたらなおさらいいですね。

これは、アパシーとか引きこもりと呼ばれる人達がいかに自分から病院を訪れることがないか(「病氣」ではないですからもっともかもしれませんが)、ということからも明白なことだと思われま。精神療法上の問題としては、彼らのこの依存のできなさが治療・支援を不可能にしています。精神分析を含む精神療法のほとんどは、治療者はまず依存されないことには何も始まらないわけです。

これもいい言葉ではないですが、斎藤環氏が言うとおりに引きこもりは『去勢』されていないのです。ただし、某ヨットスクールのような去勢の方法はそれなりに効果的ですが、ニュースタートのそれは自発的に去勢を受け入れるような仕組みになっていると、個人的に理解しています(9/22)

これに回答して、Eさんは「引きこもり」について次のように述べています。

『社会に参加しない自由』が他者との共生を妨げる場合が問題になるのだと思います。要するに、ひきこもることで、他者の生、つまり親兄弟の人権(幸福追求権)を奪うことにならないかという問題です。さらに、ひきこもりが生活保護を受けたり、ホームレス施設に入所することになると、人々の税金を『社会に参加しない自由を謳歌する人たち』のために使用せざるをえず、間接的に労働者の生存権を脅かすこととなります。だから、ひきこもりが他者との共生の原理を否定することになるのか、ならないのか議論する必要があります。ひきこもることで、他者の人権(自由も含む)を侵害することになるのなら、ひきこもりは共生の原理に反することとなります。共生の原理とは、みんなが互いの生きる権利を脅かさずに生きていこうとする規則のことです。人間が他者と共同して生きていく存在である限り、ひきこもりは罰し続けられることとなります。マルクス主義のように、人間を関係的存在として捉えるのなら、ひきこもりは否定的な存在として位置付けられるでしょう。

脱社会的存在である自由が保証される社会はあるのでしょうか?(9/23)

「Aさんへ

大変、面白い議論ですね。ひきこもりこそ、自由と自立的自我を確立した人間、つまり近代的自我(個)を体現した人々だというわけですね。そうなれば、ひきこもりという精神的に自立した人たちの連帯ないし共同作業は、ニュースタートでいう自立した個人の共同体を実現することになります。これは素晴らしいですね。

しかし思うのですが、他者と人間的に関わることで簡単に壊れてしまう自我を本当に自立的自我と呼んでいいのか少し疑問です。他者とのコミュニケーションを遮断すること、つまり無関係であることで辛うじて維持される自我を自立的自我と呼んでいいのかわかりません。自分が自由にできる範囲が、自分だけでなく、自分の外部の他者や集団にもあることが自立していると言えると思うのですが、つまり、自分の意思で外部に働きかけ、ある程度、他者の行動をコントロールし、欲望(承認欲求も含めて)を満たす対人関係の能力です。他者に依存するというよりか、他者を利用する対人関係能力みたいなものがないと、自立とは言わない感じがします。ひきこもりは自立しているのではなく、孤立しているのではないかと思います。

ひきこもりは、他者からの承認がなくても、自我を維持できるということかもしれません。脱社会的自我ですね。コミュニケーションの外で生きているわけです。しかし、本当は違うんですね。他者を意識しているからこそ、ひきこもるわけです。他者との対話が稀いからひきこもるわけです。ひきこもりほど、他者を意識し、他者に左右されている自我はありません。ひきこもりの大家で知のおたくの斎藤氏が指摘するように、ひきこもりは他者との完璧なコミュニケーションを理想としているようです。逆説的ですが、ひきこもりは他者一般への過剰意識に基づいて自我を形成しており、極度に他者一般に依存した自我だと言えると思います。ひきこもりが妄想する他者一般が神となり、彼等を苦しめているのです。この神への依存から解放することで、自立します。」(9/23)

これらの議論を受けて、私は次のように書き込みました。

「議論は佳境に入ったようです。Aさんの、ひきこもりは『サルトル的自由』、Eさんの『脱社会的存在である自由』、そしてこれを日々の生活で実践していると自称しているMさん。斎藤環もこの自由が認められる社会を求めていますね。ということは、斎藤環ですら社会批判として、この自由がない今日の社会を批判しているのですね(『社会的ひきこもり』最終章参照)。これってわたしに言わせれば商品・貨幣・資本に意志支配されない精神のあり方なんですね。

Eさんは商品経済への嫌悪感が強く、弱者から金を取ることに批判的です。でも貨幣も商品交換を

媒介している限りでは可愛いもので、Aさんのいうように、交換のない社会は将来社会でもないでしょう。わたしは貨幣の問題点を、①商品交換の媒介者にとどまらず、②それが他人の労働を搾取する資本に転化すること、③さらには利子を取る利子うみ資本に転化することに求めています。逆に今日の、この3つの機能を持つ貨幣を単なる商品交換の媒介者に制限できれば素晴らしい。

貨幣の3つの機能を1つに制限する試みが、ワーカーズ・コレクティブでの事業の経営であり、その場合、サービスの消費者(アマンさんの言う弱者)も経営の主体なのです。ひきこもりの子どもを持つ家族を単なる消費者とするのではなく、経営の主体としようという試みが始まりました。この先に『脱社会的存在である自由』の保証も可能になるのではないのでしょうか。

あとEさんの自我論について。人は他人との関係では社会の代表としての役割を強制されるのです。だから自らが社会人失格と思っているひきこもりの人々には社会の代表として振る舞う自信はなく、こうして対人恐怖に陥る。他方相手も社会の代表として現れていてこれが当事者を苦しめる。他者に承認される力というより代表として振る舞うことに耐えられないと言う事ではないでしょうか。」(9/23)

この一連の議論は、Eさんの「自由選択の主体、つまり自立的自我を可能にする社会的条件の研究」という問題提起に触発されて起きたものです。

Aさんはこの点について、自由が不自由とセットになっていることに注目し、引きこもりを自由な人と捉えました。そうすると、Eさんの問題提起にある「自立的自我」とは、引きこもりの人に妥当するので、Eさんの提起とは逆に、他人に依存することで「自立的自我」たることを止めさせる、という結論が出てきます。

これに対して、Eさんは、「共生の原理」という観点から、「社会に参加しない自由」が本当の意味で自由たりうるか、という問題を考え、それが他者との共生を妨げる場合には、その自由には問題がある、と述べました。そのうえで、「脱社会的存在である自由が保証される社会」はあるのか、と問うています。そして次に、Aさんの意見への批判として、他者とのコミュニケーションを遮断して辛うじて維持される自我を自立的自我とは呼べないのではないかと述べています。

ここで議論されている自由論、自我論は、言葉上の相違ほどの違いはないように思います。自我を社会関係のなかで捉えるときに、Aさんは、人間が社会を形成したときに、社会そのものに内在する病理を抱え込んだ、と考えているわけですから、社会からの引きこもりは、不自由だけれども自由な人だ、ということになるのです。他方Eさんは、今の社会に問題点を感じつつも、「共生の原理」を主張されているように、もっとましな社会が可能じゃないか、という考えを持っていて、文字通りの自由選択が可能であり、社会にとらわれないで、かつ、共生の原理を実現できるような「自立的自我を可能とする社会的条件」を追求しようというわけですね。

基本的人権にもとづく政治的自由は保証されているが、経済的な不平等は私有制によって残存している、これが今日の社会の出発点での枠組みですが、以降、工業化が進み、住民のほとんどが農民だった社会から、雇われて働く労働者が圧倒的多数になる社会となりました。先日統計を調べたところ、1970年には約3千万人だった雇用労働者は、今日では5千万人に拡大しています。

雇用労働者は、マルクスが述べたように、封建時代の農民と比べて二重の意味での自由な労働者でした。一つは、生産手段をもてず、それから自由であること、あともう一つは、自分の労働力を自由に処分し、どこにでも働きに行ける、ということでした。最近の消費社会の進展によって、もう一つ、生活のあらゆる領域での商品化が実現され、お金を稼げれば生活できるようになった、ということをつけ加えねばならぬでしょう。

お金も実は人間関係ですが、商品交換がなされると、作る人と買う人の人間関係が見えなくなりま

すね。ここから、他人に依存しなくとも生活できる、という意味での個の自立、自己責任の考え方が「社会の幅広い価値観」となって行きわたりました。これは新自由主義が登場したここ20年間位の出来事です。

でもよく考えれば、雇われて働かねばならない、という事自体、自立しているのではなく、隷属しているのです。この隷属は、他人という人格ではなく、資本というシステムの力への隷属(経済的隷属)ですから、自由や自立への侵害とは思えないのです。

恐らく、雇われて働く事への違和感が、引きこもりの人々にはあるのではないかと、私は想像しています。経済的隷属からの自由が要求されているのです。『脱社会的存在である自由』は社会一般からの自由としてではなく、雇われて働くことからの自由だと捉えると、道が開けてくるように思います。

5) 引きこもり当事者からの疑問

書き込みが29を数えたところで、Gさんからの発言がありました。イデオロギーについての疑問と「引きこもり問題」を利用しようとしていることと、当事者でもないのに何故熱心に議論しているのか、といった論点ですが、その発言を紹介しておきましょう。

「どこの団体でも、他の団体についての文句を言うのはとても好きでやってるとこあるみたいだね。自分は堂々と文句をここでも言ってるけど、他でこそつとやっている人の言葉は聞いたことあるよ。

「田中氏のいう『幅広い価値観』」がどうして一つのイデオロギーになりえるのかが、何度も読み返してみたがぜんぜんわからんよ。それよか、ここのニュースタートという団体でやっていることの方が、よっぽどイデオロギー色は強く感じますです。

「引きこもり問題」を利用することで、歪んだ「社会」を変革するチャンスだという捉え方。結果的に、一人一人の事例について取りこぼしてしまうところ。

知のオタクという人がこぞって、引きこもり産業に群がる現象が起きているということについては、激しく同意するところですけど、それを言っちゃみなさんもそうなのではないですか?このスレッドに参加しているみなさんは、皆、引きこもりの当事者ではなさそうだし、みなさんがなぜこれほどまでに、他人事でしかない、「引きこもり問題」について熱心に議論されようとするのが不可思議に思えてしかたありません。」(9/24)

これに対して、Cさんから、サラリーマンをやっている、引きこもりは他人事じゃない、ということ、あるひきこもりの人との対話で示してくれました。

「自分を大切にしようすると、カネが稼げない」

「カネを稼がねばならないから、自分を大切にできない。」

またAさんは逆説的にGさんにこたえて、次のように述べました。

「Gさんへ

「田中氏のいう『幅広い価値観』」がどうして一つのイデオロギーになりえるのかが、何度も読み返してみたがぜんぜんわからんよ。それよか、ここのニュースタートという団体でやっていることの方が、よっぽどイデオロギー色は強く感じますです。」

『幅広い価値観』や『価値観の多様性』もイデオロギーでしょう。わかりやすく言えば、「あらゆる価値観に固執しないようにしよう!」というのも価値観のひとつの在り方だし、イデオロギーでしょう。だから、差異を主張するところにはイデオロギーは免れえないのではないのでしょうか。

ある団体が自分達の主張をイデオロギーではないと言った時ほどうさんくさいことはないでしょう。躁的に抑圧できているか。ニュースタートは確かにイデオロギー色が強いかもしれませんが、しかしそれを隠しているわけでもないし、押し付けているわけでもないと思う。自分達の考えが『普遍的』でイデオロギーにくみしないと無理な主張をするのなら、宗教法人に改めたほうがいいでしょう。でも実際は違います。

おそらくニュースタートで貴重なことは、ニュースタートの組織、イデオロギーの中で、己が属しているイデオロギーについて問うことが許されているということです。これは団体としては、自ら集団形成に弱みを作り出すことですが、集団への一参加者としてはとてもありがたいことです。ですので、ニュースタートでイデオロギーの洗脳がまかり通っているということなどは起こりません。

こちらへんの話は映画『マトリックス』を例にあげて話したいところですが、まずGさんの応答を待ちたいと思います。」(9/25)

これらに対するGさんの応答。

「ワーカーズコレクティブや地域通貨については、よーわからん。

でも、そんなに悪いことでもなさそうなので、どんどんやってみてその結果どうなるんだろ？ってことのほうが興味があります。

ただ、なんで、このことと“ひきこもり問題”がからんでくるのかがいまいちわからんです。これと“ひきこもり問題”は別じゃいかなのですか？20年間自宅にひきこもって、家族以外の人間と関係をむすべていない人と、20年間会社につとめてリストラされて、やる事がなくなってしまった人の問題が同列に扱われているはずがないじゃないですか。ひきこもりが家から一歩でて、ある程度の友人関係を回復した上で、働くための場を求めるならば、(ひきこもりから脱出したが、就職はしていないという状態になって) はじめてそこで結びついてくる問題だと思います。

なんだかねえ、皮肉なことという、ひきこもり利権の奪い合いの構図にも見えてきますよ。

なんでこんなにも、“ひきこもり当事者”の現状がおざなりにされたまま、話がすすんでいくんだろ？、俺も自分勝手に自分のことしか考えられんのかもしれないけど、自分が会社でリストラされそうだからやばあいんだよ、もっと想像力を働かせてくれといわれたって、困っちゃうよ。だってあなたのよような立場と、わたしのような立場はあきらかに違うんだもん。

現実的にあなたたちがやろうとしていることが、“ひきこもり問題”の解決に役立つとも思えない。それはあなたたちがかかえる問題の一つの解決になりえることだとしても、やっぱりひきこもっている当事者の一人一人はとりこぼされていくと思うよ。」(9/25)

「そりゃ厳密にいったら『幅広い価値観』だってイデオロギーになっちゃうんだらうけど、そんなこといってたらすべての言葉が相対化されちゃうよ？誰の言葉を信じたらいいんだってことになっちゃう。俺は、ここで発言している人のことをまったくといっていいほど知らないし、信頼するに足るのが、文章しかないわけで、その点では田中さんの言葉が一番信頼できそうだって言ってるわけね。

田中さんだって、自分の考えをおしつけるような人には思えないってのが、自分の印象だけれど、どうかな？

もちろん、これは今の時点での印象で絶対的なものじゃないよ。

ただ、俺は、ひきこもり当事者で他に自分みたいな奴を相手にしてるところがないから、あきらかに考え方が違うにもかかわらず、それで仕方なしにニュースタートでごちゃごちゃとからんでいっているわけだけど、普通の人なら、地域通貨のことなんかに興味持ったとしても、これだけ考え方違ったら、あんましもめるのもいやだろうし、出て行ってると思うよ。」(9/25)

書き込みの順序は変わりますが、ワーカーズ・コレクティブと引きこもり問題との関連について、Iさんが書き込みました。

「ひきこもりの人たちにとって『ひきこもりから抜け出してその後どうやって働いていくのか』と言う問題はみんなに共通する問題じゃないかな？ですから、『はじめてそこで結びついてくる問題』ではなく『いずれ必ずぶち当たる問題』と考える事は出来ませんか。

僕は今『ワーカーズコレクティブ』に参加していますが、もともとこの『ワーカーズコレクティブ』は、ニュースタート事務局関西が作った『フリーターズネットワーク』というものが進展して出来たものなんですね。もともと、ニュースタートでは株式会社が生み出す競争社会が対人不信、対人恐怖を生みそれが子供達のひきこもりとなって出てきていると考えていますよね。

ニュースタートとしてはひきこもりから脱出してフリーターになってそのあとはどうするの？

株式会社に就職してまた競争社会に戻って行くの？それではひきこもりの根本的解決にはならないんじゃないのかな？という問いを持っています。

自分の事を言えば、僕も一応『ひきこもり』というものをやっていたんですが、中学生ぐらいのときから将来自分が社会参加(働いて)している姿が想像できませんでした。

性格上サラリーマンや公務員(雇われて働くこと)などは向いていないし、かといって自営業で働いていくバイタリティもないし、もちろん芸術なんかで食っていくことなんて能力もないし考えたこともありませんでした。(昔の人から言えば贅沢すぎる！と怒られそうですが)

おのずと、社会参加していくことに対して手詰まり状態になってひきこもったわけなんですね。

僕がそこから抜け出したのは8年程前だったのですが、ニュースタートも勿論無く、ひきこもりなんて言葉も一般的でなかった(僕も自分が何をやっているのか良くわからなかった)ころで、何とか自力で脱出したんですね。(厳密に言えば自力ではない=周りの変化もあった)

でも、昔からもっていた社会参加のイメージがつかめない事にはかわりはなかったのでフリーターを淡々と続けていたわけですよ。そこで、フリーターズネットワークに出会って勉強会を進めていくうちにワーカーズコレクティブというものに一筋の光明というか、これなら、自分の社会参加のイメージを作れると思ったわけなんです。」(9/25)

「僕にとっては『ひきこもり』→『ワーカーズコレクティブ』はつながっているんですね。

もちろん、これが皆が皆に当てはまるとは当然言えませんが、ニュースタートに参加していると『ガツガツ』した若者が少ないって本当に思いますね。でも、働く事自体は好きな人が多いようにも同時に感じています。こういった人たちには『ワーカーズコレクティブ』的な働き方がピッタリだと僕は考えています。

もちろん株式会社の競争社会に戻って行くのもそれはそれで本人の選択であればいいと思うし、僕自身『会社員や公務員は人に非ず』ってな考えは毛頭持っていません。

ただ、今までには無かった道を作るのも必要じゃないかというのがワーカーズコレクティブの考えた(ワーカーズに参加している僕の考え方)なんです。」(9/25)

これらの応答で、Gさんが9月25日に述べたイデオロギーについての疑問や、サラリーマンや非ひきこもりの人たちにとって何故ひきこもり問題が他人事ではないか、といったことや、ニュースタートがかかっているワーカーズ・コレクティブとひきこもりの関係などが一応相互了解しえたのではないのでしょうか。

6) 発想の違いが出てきた

ひきつき応答にもどりましょう。Eさんも「ひきこもりは我々の問題」だとして書き込みました。これに対してGさんも応答、このやりとりのなかで、発想の違いが出てきました。

まず、Eさんの書き込みから。

「Gさんへ

ひきこもりは他人事ではないから困るんです。共生の原理でも述べたように、ひきこもることで間接的に他者の幸福追求権を削ぐことになるからこそ、我々の社会構造の問題として考える必要があります。多くの人間がひきこもっても、誰にも迷惑がかからない理想社会ならいいのですが、現実には社会参加拒否が許されるような都合の良い社会ではないようです。そこで、ひきこもらざるを得ない理由が社会にあると考えたら、境さんのような社会変革の考えになるわけです。いじめやパワーハラスメントが横行する学校や企業社会の対人関係を乗り切るには、相当の対人関係スキルがいます。また、対人関係能力があったとしても、今の社会では虚無感しか感じない人は、社会を見捨てます。どうせサラリーマンや土木作業員になっても面白くないと考える人たちは、魅力のない社会に見切りをつけて、自分達で新しい社会をつくらうとすることは、人間として当然ですね。ひきこもりが今の社会には居場所がないのなら、自分達が切り開く以外方法がないというわけです。ワーカーズコレクティブや地域通貨は、ひきこもりの人でも居場所になる社会の基本的な設計図ということになりましょう。少なくとも、ひきこもりにとっては、企業戦士になるよりは、地域通貨によって構築された社会のほうが住み良いような感じを受けます。ひきこもりに一つの社会の選択肢を提示しているわけです。それにのるかのかのらないかは、個人の自由でしょうね。一方、現状の社会でも、個人労働につけば、対人関係に煩わされず、ひきこもってもできるという発想もあります。

ちなみに、私は全くニュースタートの人間ではありません。多少、ホームレスなどに関わる仕事をしています。自分の価値観に基づいて全く好き勝手書いてます。田中氏のホームページによく遊びに行ってます。一度、理想社会について田中氏と議論したいです。」(9/25)

「いずれにしろ、理想社会を実験的に作り出そうとする、極めて人間的な営みを、イデオロギーだからダメだと否定し、摘み取ろうとする立場は怖い。現実社会ノーという立場の人間が実験的に新しい社会形態を生み出そうとする努力は肯定されるべきだと考えてます。要するに、人権を無視して、それを人に押し付けた時のみに、問題になるだけです。田中氏は、リースクールが洗脳している側面があると言ってますが、ひきこもりは自由意思が弱く、洗脳されやすいということでしょうか？ ひきこもりであっても、基本的には所属団体を自由意思で選択していると思えます。」(9/25)

Gさんの応答。

「間接的に他者の幸福追求権を削ぐことになるからこそ

なんて気になる言葉だなあ。見方によっては、”ひきこもり=反社会的行為”みたいに読めなくもない。他者の幸福追求権を削ぐなんて言ってもそれはせいぜい、親レベルまででしょ？ ひきこもることで社会にかける迷惑なせいでせいぜいいたかがしれてるよ。マクロな問題として扱うんなら、アルコール中毒・薬物中毒なんかの問題でもいいし、ひきこもり以外で問題とされるものはよっぽど沢山ありますよ。

斉藤環なんかは、すべてのひきこもり当事者が職につくべきとは思ってないなんて発言してるし、まず経済的に自立することよりも、親友を獲得することの方が大事だと。確信的にひきこもる自由もあっていいと。こういう斉藤環の発言は実地に即してとても良心的に思えます。ここら辺りのこ

とは、みなさんにとっては当たり前のことなんでしょうけど、自分なんかにとっては未だハードルが高いです。

Eさんの引用したような発言が、今、引きこもっている当事者達の圧力になってしまうような事態を私は一番懸念します。

「現実には社会参加拒否が許されるような都合の良い社会ではないようです。

って本当にそうか？昔からフーテンの寅さんみたいなことやっている人は沢山いたよ。そして、そういう人達も、どこでもどんな人にも歓迎されるってわけじゃもちろんないけど、ある程度は社会に許容されてきたわけだし、世の中にはよくわからない不思議な職業をやってそれで自活してる人も沢山いますよ。

前にも述べたとおり、自分はワーカーズコレクティブ全否定じゃないよ。よくわかんないだけです。ただ、今の社会が間違っていて、自分達の行き方スタイルが本当のもので、それを選ぶのは個人の自由って言われても、ひきこもってる当事者を受け入れてくれそうなのはどちらなのかは自明ですよ？一人でもひきこもるか、または、我々の生き方を選ぶかなんて選択を与えるのはちょっと酷ですよ。自分なら、あなたたちがやろうとしていることでもない、また違った選択肢が欲しいな、なんて我ままにも思ってしまう。これはEさんの理想社会の返答にもなってるんじゃないですか？」(9/27)

Eさんの反論。

「保護者が死んだら、兄弟の援助を受けながら、生活保護になると思います。保護者が借家の場合、死んだら家賃が払えず、追い出されます。ホームレスの施設にくる他ないでしょう。そういうケースも実はあります。まだそういう問題が多く顕在化していませんが、あと10年もすると出てきます。ざっと十数万人から100万人の数のひきこもりがいると言われてます。しかも増加しています。その人たちが生活保護(月13万円程度)を受けるとなると、大した金額になります。そういう状況を深刻に捉え、厚生労働相も動き出しています。高齢化社会でただでさえ、社会福祉に莫大な財政を使わないといけない時期に深刻な問題になりそうです。しかし、ここで大きな問題が一つあり、ひきこもりが「働けるのに自由意思で働かない人」であった場合、生活保護がでるかという問題です。病気と見なされたらですが、『生き方』の問題であると見なされたら、認定されないと思います。アルコール依存や薬物依存は、病気ですからです。ひきこもりに生活保護をだしたら、えせひきこもりも出てくると考えられます。

こういう認識がひきこもりにとって圧力になり、よけいにひきこもってしまうという悪循環を斉藤氏は指摘していますが、きついですよ。国家やマスコミがそういう観点をもっていることは事実として認識しておくべきことだと考えます。どのような合理化によっても、事実には事実として襲ってきます。保護者が死んだら。そうなる前に、ひきこもり系の色々な団体に所属し、生きていくための力を研ぐことが必要だと思います。

確信的ひきこもりが反社会的行為と見なされる可能性は大いにあります。というのは、憲法の勤労の義務に確信的に違反しているわけですから、法的にはそういう解釈も可能です。なによりも、反社会的かどうかは、体制が勝手に決めることですから、そうなる危機感ももっていると思います。一番怖いのは、ひきこもり対策として徴兵制をひかないかということです。これは一番嫌です。」(9/27)

「ひきこもりを個人の自由意思の問題ではなく、社会病理(病んだ我々の社会の問題)として捉え、社会の問題だから、社会の成員であるみんなが責任を持ち、負担し解決すべきであるという視点があります。この考えからすると、ひきこもりという社会的犠牲者に国税を導入してもいいという発想になります。社会の犠牲者ですから、市民社会(NPOも含む)が責任をもって支援するのはあたりまえです。ひきこもりを社会病理として捉える視点は、根本的に必要だと思います。

フーテンの寅さんのような自由人とひきこもりの決定的な違いは、コミュニケーションに参加しているかしていないかです。働かずフラフラしている遊び人がある程度地域社会に許容されているのは、地域社会の人たちとコミュニケーションをとっているからです。コミュニケーションを拒否して人間を受け入れるだけの包容力があるかどうかと言われれば、今の社会は疑問です。

社会が提供するひきこもりの居場所が限定されており、二者択一的にならざるを得なく、それ自体が一つの権力としてひきこもりに圧力がかかるという側面の指摘だと思われませんが、ひきこもり支援団体はいくらでもあるので、不登校情報誌などを見れば、選択の余地はいくらでもあります。好きな価値観の団体を選べばと思いますが？ それこそ田中氏のドーナツトーク社の相談活動を受けてもいいと思います。インターネットで探し、メールのやり取りから、その団体に探りを入れたらいいと思います。

ひきこもりに複数の違った選択肢があってもいいと思います。個人それぞれ違いますから、違った選択肢を選ぶのは当然です。社会の側が用意した選択肢(NPOも含む)が気に入らないのなら、ひきこもりの当事者が別の選択肢を考えればいわけですが、そこで問題があります。ひきこもり同志が連帯することが困難だという事態です。コミュニケーションから退却していますから、他のひきこもりと連絡し、一つのプロジェクトを立ち上げることができるかという問題です。ひきこもりは決定的に社会的な牙を削がれています。もちろん、ひきこもりのレベルによりますが。」(9/27)

Gさんの意見

「Eさんはいったい何がやりたんだかわかんなくなってきたよ。あなたは官僚でもないんですから、そこまでマクロな問題にこだわって発言する意図がわからない。

そんなにひきこもりって社会にとって悪か？アルコール中毒だって薬物依存だって、本人の責任の部分はかなりあるだろう？そういうたもろもろは病気と言ってこれは援助の対象で、ひきこもりだけは、とにかく「えせひきこもり」排除のために生活保護は出せないよね。

俺はそうは思わない。自分自身が生活保護なんて受けるようになったら本当に、「えせひきこもり」だと思ってしまうというギリギリの状況になるまで努力するつもりだよ。でも、どうしてもひきこもりと呼ばれる人達の中には、生活保護を受けざるえない、それに相当するぐらいの状況にまで追い込まれた人が、どうしても出てくると思うし、それぐらいのものは社会が許容すべきだと思う。偽者の問題なら、もうすでに偽障害者だの現実問題としていっぱいいるよ。林マスミ夫妻なんてそーだったじゃないですか。聞いた話だが、ヤクザ関係の人で、国の福祉制度を目一杯利用して、若い女性のヘルパーさんなんかはみんな愛人にしちゃって、ハーレムのような生活してる人なんつーのがいるって聞いたぞ。そっちの方はノーチェックですか？制度があればそれを利用しようとする人がでてくるのは仕方ないことで、これをできるだけ排除できるように上手くシステム的に機能させることの方が大事なんじゃないですか？

あと個人的な感想だが、ひきこもりと呼ばれる人の多くは、社会と関わりを持ちたがらないのだから、生活保護を受けるような状況を好まないってのもあるよ。極端な話、生活保護を受けるくらいなら、自殺を選ぶよ。個人的にもそうまでして生きる意味は見出せない。だから、最終的に生活保護にまで至るのは、ごく少数と見ている。」(9/27)

「ひきこもってる人ってのはインターネットだってやらない人も多いし、持っている情報なんて極く限られたものだよ。この掲示板でも当事者のカキコミの少なさも如実に現れているでしょ？見てるだけの人でも、怖くて書き込めないって人が多いんだよ。折角出合った団体が自分に合わなかったら、また次の団体へなんてことが簡単にできるとも思えない。一度やってダメだったら、また次に一歩踏み出せるまで、何年かかるだろうか？って話だよ。だからこそ、それぞれの団体同士は連絡を密にし

て、その一つの団体で当事者をかかえこまないようにってことだよ。この人はうちの団体には合わなさそうだと感じたら、その他の団体に連絡をとってその橋渡しをするぐらいのことは果たしてもいいんじゃないかな？」(9/28)

Eさんが「ひきこもりは我々の問題」というとき、それは「共生の原理」を侵害する、という見地からなんですね。これはひきこもりを自分の問題に重ねているCさんやIさんの立場とは違う。ただ、私が最初の書き込みで言いたかったことを、Eさんはここで述べてくれました。「理想社会を実験的に作り出そうとする極めて人間的な営みを、イデオロギーだからダメだと否定し、摘み取ろうとする立場は怖いんです。」その通りで、私が田中さんを引き合いに出したのは、田中さんがそうしている、という意味ではないが、あのようなフリースクール批判は怖い、と思ったのです。「社会の幅広い価値観」の方も、10年単位でドンドン変わっていています。今日の自己責任を強調する新自由主義の価値観が「社会の幅広い価値観」となったのは、10年くらい前のことですね。(いわゆる民営化論とセット) それはともかく、Eさんの書き込みには社会防衛論的でしたから、当然にもGさんから反発を受けることとなります。ではその議論はどのような結幕を迎えたのでしょうか。

7) 一応の結幕

この長い議論も一応の結幕へと向かいましたが、口火を切ったのはAさんでした。

「EさんとGさんの意見はそれぞれ一理あるのではないのでしょうか。どちらも相当正しいことを言っていると思う。

ところで、Gさん、やけに『当事者』にこだわりますね。ここの同じスレッドでさえ、ある人は議論の参加者をみんな引きこもりの当事者だと見なして『議論ばかりしていないで出ておいでよ』と言うし、かたやGさんは、当事者の参加が少なく、意見が反映されていないと嘆いておられる。

僕はニュースタートの掲示板は当事者の書きこみが多いと思っていましたが、実際はどうなんだろうね。少なくともいないことはないでしょう、このお堅いスレッドを含めて。

当事者=引きこもりとは定義が難しいでしょう。『元』引きこもりと言えば、そうとうな人が出てくると思いますし、そもそも現在進行形の当事者だって、斎藤環の『6ヵ月以上家族以外の対人関係がない・・・』という定義だけに還元しきれないものがあるわけでしょう。この定義は健康保険対策上の便宜的な定義です。

リストラに類似する経験を引きこもりの社会に対する居心地の悪さと同じだと言う人もおられますが、Gさんはそれとこれは同一線上の問題ではないと言う。

ではGさんはこれだけ広い状態像をもつ引きこもり当事者の気持ちがわかるのでしょうか？Gさんがこのスレッドに参加している『非当事者』達に対して、引きこもり当事者のことがわかっていないと言うことはそれほど信憑性のあることでしょうか？理解とか、共感とは最終的には各々の主観に依っています。僕は一般的な意味での引きこもり経験はないですが、広義の引きこもりであると自負しています。引きこもりの若者の心性には激しく共感するものがあります。引きこもりの人に一般的に共通して見られる心の在り方を僕も持っていると思います。僕の主観からすれば十分わかっているつもりです。

他の参加者の議論参加の意図はさまざまですが、引きこもりに無関係ではないからこそ参加しているのでしょうか。参加には各々に独自の理由があるはずですが、それでいいのではないのでしょうか？」(9/28)

これに対して、Kさんが批判しました。

「引きこもりの若者の心性に共感するからといって、それだけで引きこもりを自称されても正直なところ反発しか覚えません。自分をひきこもりだと認めて、援助団体にすがりながら数年もかかった僕には、ひきこもりを「自負」するなんて感覚がさっぱりわからない。

最近、『ひきこもり』という言葉が一般化してきたせいか、様々な人がライト感覚で『ひきこもり』という言葉を使ったり、仕事を持ってちゃんと自活している人の中にも引きこもりを自称する人が増えています。自分の悩みや葛藤をひきこもりの当事者に重ね合わせるのは構いませんが、『ひきこもり』の定義を広げすぎると、本当に苦しんでいる当事者の現実的な問題がおざなりにされないかという危惧を持ちます。

ひきこもりの当事者には当事者にしか語れない言葉があるし、当事者でない人はそれぞれの立場から思うことを語ればいいのではないのでしょうか。そこには当事者が持たない新たな視点があるはずで、発言者の立つ位置をことさら曖昧にする必要はないし、社会的な立場(当事者か非 or 元当事者かくらい)をある程度は明らかにして頂いたほうが、議論の中身が見えやすいように感じます。」(9/28)

つづいてGさんも、次のように述べました。

「また、田中さんの論文を引用するけど、ここね。

<http://member.nifty.ne.jp/donutstalk/tohjisha.html>

自分はできれば、ひきこもりの当事者だと自ら主張することは避けたいと思っている。(ぜんぜんそうなっていないけど…) だけれども、やっぱりAさんのような人までが、自分は広義のひきこもりだなんて主張されてしまうと、ふざけんよ!と怒りの感情が沸々と湧き出てくるわけで、今までさんざん差別的、否定的なこととして扱ってきておいて、いざ、社会問題と認識され始めると、今度は、自分は”ひきこもり”だと主張する輩が大挙出現し始める。

2チャンネルにあった書き込みからの引用ですけど、

>> なぜか、病気が重い人ほど「自分はひきこもりです」と主張したがる。>>

>> 次は、ひきこもってはいないけれど人間関係とか、あるいはフリーターであるような場合とか「ひきこもりみたいなものですから」と言ってひきこもりのコミュニティに無理に参加したがるタイプもいる。>>

これはまさしく現状を言い当ててはいませんか? まあ、さすがに純粋なひきこもり、真性ひきこもりしか、コミュニティに参加してはいけないとまでは思わないけど、それはそのコミュニティの運営者側の、方針次第でしょう。だけれどもその偽ひきこもりの人物が、デカイ顔をしてのさばり、本来のひきこもり当事者が居辛さを感じるような事態になってしまっただけでは本末転倒ですよ。

リストラされそうで、自分はひきこもりみたいなもんだ、なんて言ってる人の気持ちはもちろん分かりかねます。そっちの側の人間だって、自分みたいな人間の気持ちは分かりかねるでしょ? 私は偽ひきこもりの気持ちまで代弁するつもりは毛頭ありません。」(9/28)

Eさんからは「共生の原理」についての率直な自己批評がありました。

「Gさんへ

官僚的になってすみませんでした。官僚は嫌いです。私も自由になるために、そういう官僚的認識から離れて思考したいと思います。この際、ひきこもることで他人に迷惑がかかるという宮台真司的視点(共生の原理)は捨てたいと思います。

それと、一つの団体から別の団体に移籍する際に伴う心理的コストは、やはり大きいと思いました。

当事者の視点だと実感しました。」(9/28)

これまで議論されたのは「当事者」と「非当事者」との区別の問題でしたが、この点について、Hさんは、Kさんに呼びかけて次のように述べています。

「社会的な立場は大切ですか? 自分がどれだけつらかったか、ここまで来るのにどれだけ大変だったかということを持ち上げて意味はないと思います。引きこもっている当事者の人の現実的な問題というのは、確かに困難な問題だと思いますが、そうでない人も何らかの問題を抱えていると思います。

『引きこもっている』ということばそんなに特別にすべきことですか? それは社会に出て行くときに足枷にしかならないのではないのでしょうか。それは皆が『普通の人』であることを認識出来るようになるためには余計だと思います。」(9/28)

○ Kさんは早速レスを寄せました。

「Hくんへ

『社会的な立場が大切』なんて言ったつもりはないです。あえて当事者とそうでない人の境をあいまいにする必要はない、って程度の意味なんですけど。それと僕は別に当事者の苦悩を『持ち上げて』はいない。Aさんのレスからの流れで読んでください。僕が私拭きたい『ひきこもり』という問題を『自負』されたことに対する違和感として書いたものです。不幸自慢したいわけじゃない。

それに、ひきこもりの人もそうでない人もみんな何かしら問題は抱えているだろうけど、ここはひきこもりの問題を扱っている場なんだから、差別化して語るのが当たり前だと思います。別に自分を特別視してるつもりはないし、そんなこと一言も書いていません。でも、ひきこもり問題における当事者のコミュニケーション不全は(個人差がかなりあるとはいえ)全体として深刻だと思うし、社会に出ていくためには真剣に考えるべきです。

あと、『普通の人であることを認識する』ってどういうことですか? 自分と他者とのあいだに自ら勝手に築き上げた高い垣根を取り外す、みたいなことなのかな。『自分は他の人とはちがう』と、自己の思いこみからくる悪い意味での特別視を緩和するべき、って意見なら反論するところはないんだけど。」(9/28)

○ 別の観点からCさんは述べました。

「リストラされたおじさんが引きこもりだとは僕も思っていないよ。

まずこの社会に蔓延している病理があつて、その病理がある場所ではリストラの問題になり、また別のシーンでは引きこもりという問題になる。というふうに僕は認識しています。

Eさんの説明は非常に論理的で、ある意味『引きこもり』と『政治』という問題に踏み込んだものだと思います。

僕が言おうとしているのは『この世界の生き難さ』のことです。僕は引きこもりとはほど遠い生き方をしているけれど、ニュースタートと接触した時『これは僕の抱えている問題と同じだ』と思いました。何故かという答えは避けましょう。想像してみてください。

では、ちょっとしたイメージトレーニングです。

リストラされたおじさんと、引きこもりを脱出した人たちがワーカーズコレクティブにおいて出会う。

そこではどんなことがおこるんでしょうね。想像してみてください。

僕は手垢のついた革命とか社会変革という言葉は好きではない。

あえて、それを「脱出」と呼びます。」(9/29)

掲示板に書き込んだ人たちが、お互いの書き込みに反撥しあう、という事態が、当事者と非当事者という線引きの仲で整理され、結局は色々な立場の人間が居て、議論しあうことの否定には到りませんでした。

田中さんの当事者論が紹介されているので、これに一寸コメントしておきましょう。田中さんは長年不登校やひきこもりの若者たちへの訪問によるカウンセリングを職業にしてきた人で、差別ということに反対する強い意識をもっているようです。彼は、最近ひきこもりの当事者が体験を語るが多くなったことについて、当事者が発言するようになったことを非常に緊張して受け止めているのです。というのも、従来は、彼は、不登校やひきこもりの若者の代弁をしてきたが、いよいよ当事者が語るようになってきたことで、自身が試されているといった意識を持っているのです。何かしら、当事者を神聖化しようとしている意図が感じられました。差別反対の強い意識が、差別者と非差別者という図式のなかで、どちらを選択するか、といった「自分は差別する側には回りたい」といったレベルにとどまっているのが、その原因ではないかと私は考えています。差別者と非差別者、あるいは、今回のケースだと、一般人とひきこもり、というように線引きし、どちらの側に回るか、ということはいわゆる理屈ではありませんが、そのような選択を試みたところで、個人の良心を満足させるにとどまるし、もしこの選択を他人にも迫るような運動が提起されれば、その政治的帰結は差別者と非差別者の固定化にしかならないように思います。

当事者が発言すること、当事者の意識に共感したり、理解したり、了解することは、とても大切ですが、当事者の立場に身を置くことで、自分の良心を満足させるようなあり方は、当事者にとっても、とくにひきこもりの場合、迷惑ではないでしょうか。

私自身、ひきこもりの人たちの意識に共感するところではありますが、ひきこもりの立場に身を置いて、自身の援助活動をやろうとは考えていません。全国親の会の場合は、ひきこもりに公的保障を要求していますから、これがそのケースですね。私自身の活動は、ひきこもりの人たちの意識を大切に、それを全否定せずに働いて生活できるような経済システムをつくり出すことにおかれています。

議論はしますが、いわゆる洗脳(特殊な環境に閉じ込めて、人格を急激に変えてしまう、という狭い意味)やマインドコントロールは必要ありません。というのも、ひきこもり、という社会的存在がもつ社会的意識を育てようとしており、ひきこもりが経済的、社会的な主体として活動できる場を用意しようとしているだけのことで、このスレッドの議論でわかったことは、ひきこもりの人の意識がまだ、自らの社会的存在がもつ社会的意識へと到達していない、ということでした。次のステップは、ここに向かうことになるのではないかと期待しています。

8) 一応の結幕への補足

一応の結幕のところで先導したAさんが、全体の流れが次のステップへと移ろうとしているときに、長い書き込みをしました。これは補足として紹介しておきます。

「ちょっと掲示板を見ていない間に話題が転換されつつありますが、すみませんがまたちょっと戻らせてください。

すみません、『自負』という言葉が『自認』に訂正します。意図したいこととは違う意味になっていました(辞書ひいてみて間違いにやっと気づきました。反省)。Kさんと、その後に書きこみをしたGさんは、おそらくこの言葉に引っかかったのだと思います。自負という言葉には自信のニュアンスが

含まれているのです。そういう気持ちは全くありません。むしろ引きこもり体質は日々の悩みのひとつであり、常々改めたいと思っているところです。

でも、Kさんは『自認』することにも反発を覚えると言うので、自負という言葉に対してだけ憤懣したわけではなさそうですね。おそらくGさんはそのKさんの言を引き受けて、引きこもりの正統性が問題だと主張しているのだと、僕は理解しました。

もう一度断っておきますが、言いなおさせてもらえば、僕は『広義』の引きこもりであって、引きこもりに共感し、同じ『心性』を持っていると『自認』している、つまり『主観的』にそう感じると。状態像としては引きこもりではありません、つまり客観的には引きこもりではありません。それに、僕は引きこもりに親和的である、近いと言うくらいで、是が非でも引きこもりであると主張するものではありません。実際、引きこもりではありません。 つづく」(9/29)

「Gさんが僕が言いたかった事をまさに言ってくれているので、補足させていただきます。すみませんが、今は添付して下さった田中さんの論文は読んでいないので、Gさんが書いたことだけへの言及です。

僕が言う意味での引きこもりは現象面から定義されることではありません。広義の引きこもり然りです。引きこもりが社会に注目されだして、積極的意味や同情、受容が今後さらに増していけば、自傷系の人々が「引きこもり」をキーワードとして利用していくでしょうし、実際そういう人が増えてきていると思います(だからといって自傷系の人々が苦しんでいないというわけではないので、Gさんの彼らを『偽』と呼ぶのであれば、言いすぎではないかと思う)。上のEさんの議論のように、ただ怠惰だけで、何ら葛藤を持ち合わせていない人も引きこもりと呼ばれるようになるわけです。健康保険・社会保険の適用になったらなおさらでしょう。

だから、現象(=引きこもりという行為など)だけを見ていたら引きこもりの本質を取りのがしてしまうのではないのでしょうか。時が経つに従って、『引きこもり』の内実は変わっていくでしょう。見かけ、つまり客観的には引きこもりだけど、心の在り方がまったく違うという状況が出てくる。今でも多様化しつつありますが、それらの人々が同じ引きこもりという状態だから、引きこもりのラベルを張った(受け入れた)ところで、対応の仕方は異なったものになるわけです。現在引きこもりと言われる人々には、説得や叱咤激励は効果がないどころか、逆効果でさえあると言われますが、今後引きこもりを、自分探しのラベルに使う人々に対しては、説得や自己啓発、そして『本当の自分探しカウンセリング』は奏効することでしょう。それはそれでわかっていけばいい。後者のタイプが下等な引きこもりである、と言うわけでは一切ない。

しかし現在の引きこもりのほとんどは、まだ斎藤環氏が言う『社会的引きこもり』の特徴を示しているわけでしょう。学問上、対人関係の挫折や社会参加しないことへの葛藤などがある。さまざまな行動上、そして心理上の防衛を用いて葛藤しないようにするが、それが悪循環になって更に引きこもりを深める。 つづく」(9/29)

「何度も言いますが、斎藤氏が便宜的に定義している、そしてもっとも一般に広く受け入れられている意味での引きこもりは、6ヶ月以上云々という条件を充たす必要がある、そして他の精神疾患、例えば強迫神経症などの症状を一次的ではないことが重要な要素です。これは国に治療費を請求する義務からこのような表象レベルの症状・状態から客観的に判断し、マニュアル化する必要性が出てくるわけです。

ニュースタートはNPO法人で、国家の管理する医療制度とは距離をとることができますから、少しでもニュースタートに出入りしたことがある方ならわかっていると思いますが、その若者との関わりにおいて上記の医学的定義はたいした意味を持たないわけです。

外出できる人も引きこもりと自認してくる。友人が少ないけど、いる人もいる。彼らはそれでも『ひ

きこもり』の会に来る。鍋の会などの企画に参加している人は、6ヵ月以上・・・という条件は満たせないわけですから、定義上は『元』引きこもりと呼ぶべきなんですか？しかし、鍋の会やそこらにちょっと出入りできたところで、問題解決にはなっていない。ただ、問題に取り組むことができ始めるようになった、くらいで社会生活における苦悩や困難は、まったくもって目前にある問題のままです。

強迫神経症と呼べるような症状を呈してから引きこもった人もいます。では彼らは偽引きこもりですか？ニュースタートにおいては、そこらへんの区別はほとんど意味がないのではないのでしょうか。なぜかわからず引きこもり出した人も、強迫神経症の人も、僕が客観的に見る限り、彼らが取り組もうとしている問題はほとんど同一だと感じます。

では、強迫神経症とは何でしょう。ノイローゼ？。これも医学的な言葉です。強迫神経症の定義もあやふやなもので、強迫観念や強迫行為・儀式なんていうものは、いわゆる健康に暮しているという人たちでも大なり小なり行っていることなのです。ただ、日常生活に支障を来す、と主観的に感じられる時にだけ問題になるものです。ちなみに僕自身は友人らに話すとき舌を巻かれるであろうほどの強迫儀式を生活の中に取り入れています。どうか日常生活を送っています。」(9/29)

「では、家や部屋に引きこもること自体が引きこもりの特性ではない、と考えるとしたら、何が残るのでしょうか。心の在り方、心の癖でしょう。そのような共通の心の癖を持つことにより、現象面はさまざまでも、問題意識は同じになっているのではないのでしょうか。その心の癖とは「強迫性格」とか「強迫パーソナリティー」と呼ばれるものです。これは、現在引きこもっているかどうかにかかわらず、そして強迫神経症的な『症状』を呈しているかいないかにかかわらず、引きこもりを自称・他称する若者の多くに見られる状態です。

僕は引きこもりではないが、心性がわかるかと言うのは僕自身この強迫的な性格を持っているからです。真性引きこもりを自認する人も程度の差こそあれ、同様の問題を抱えています。それゆえ、ニュースタートに関わるようになりました。

Kさん、『お前は俺たちの苦しみなんて理解できていない。気安く自分を引きこもりと呼ぶな、同様の悩みを持っていると言うな』というような物言いですね。Kさんの苦しみを僕は理解していないし、共感もできないでしょう。あなたが誰か知りませんから。何の話も聞いていませんから。知っていたところで、話を聞いた範囲で、僕の経験と照らし合わせて、僕の理解できる範囲で、主観的に『共感』できるだけです。僕はKさんに共感できる、とは言っていませんが、Kさんが僕の上で言ったような一般的な引きこもり者であるのなら、問題意識はある程度共感できているつもりです。しかし個人的なイベント云々は知る由がない。まあ、『自負』という言葉が油に火を注ぐ結果になったのかもしれませんが。これはすみませんでした。軽率でした。 つづく」(9/29)

「それとも、そもそも僕が広義の引きこもりを自認する、と言う前の掲示板で焦点を当てていたことが問題なのではないか。極端ですが、他人のことは他人が感じているのとまったく同じようには理解できないということです。主観的、主観的、とつまらん言葉を連発した所以です。ただし、慎重に話すにはこの言葉を使わざるを得なかった。この観点を使って言わせてもらえば、KさんやGさんは、なぜ僕のことかわかると主張できるのですか。もっと極端に言えば、どのようにKさんとGさんは自分を「引きこもり」がわかる者として、引きこもりの代表者のような物言いができるのですか。根拠はなさそうですが、それは自明的なことなのではないでしょうか。僕のことを「偽」呼ばわりしますが(実際偽には違いありませんが)、自分は「本物」なのではないでしょうか。それは自分が自分で思うから？他者から認定を受けるわけでもないでしょうに。

つまらんことを言いましたが、当事者、非当事者はそれぞれが自分勝手に主張するしかないんじゃないでしょうか。それに二項対立にする必要もことさらなく——僕は中間に位置すると思っています。

『ひきこもりだった僕から』の著者の上山氏は、引きこもり系の掲示板で『こいつは引きこもりではない、代表者みたいな口をきくな』と散々言われているそうです。上山氏の手記が引きこもりの名を世間に広め、よりよい理解に貢献したにもかかわらずです。これらのことを鑑みると、Gさんが主張する、真・偽とかまったく意味がないのではないですか？」(9/29)

「これは別のネタで。アホみたいにくさく書いて申し訳ありません。これから1週間仕事でPCに向かえない状態になるので、今日のうちに書かせていただきます。これで終わりです。

Eさんも指摘した通り、Gさんは、イデオロギーであれば、悪とまでは言わなくとも、信用に足らんという考えをしているようですね。それに対して、僕がイデオロギーの多様性も、イデオロギーのひとつでしょう、と言ったら、それでは全てが相対化されてしまう、と申された。これに同意します。イデオロギーはすべからず相対的なものです。NSの主張も既存の社会のそれと相対的だからこそイデオロギーと言われるのでしょう。そして、イデオロギーである事自体、悪ではありません。イデオロギーを自認して、強制を強くないNSのやり口は道義的だとさえ言えるでしょう。

ちなみに、僕は『引きこもりを散々否定して、悪口を言った人間』ではないですよ。引きこもりの良くない点は今更話す必要はないですし、していません。むしろ僕は積極的な意味ばかり引きこもりに見出す発言ばかりをしたつもりですが。このことはすごく慎重にしている、すべての掲示板の書きこみにおいて確認できることのはずです。では、上記のような人物が僕であると名指ししていたかどうかはいいでしょう、しかしGさんが言いたいこと、そしてこれまで言ってきたことは、社会が引きこもりを蔑み、排他的・排他的に扱ってきた、それに対する怒りでしょう。

にもかかわらず、Gさんは『偽』ひきこもりに対して排他的ですね。それに『本物の引きこもり』というイデオロギーを形成しようと躍起になっている。NSのイデオロギー体質を批判しながらも、自分はイデオロギーを構成して排除を推進していることに気づいていないのでしょうか？」(9/29)

このAさんの書き込みに対して、Kさんがレスを書いています。

「Aさんへ

だいたい了解しました。たしかにひきこもりという現象だけを捉えていても本質がみえないという点は納得です。ただ僕は、まず眼前の今の状態を具体的にどうにかしたいという思いが強いので、広い視点で物考えることが難しくなっているのかもしれない。Eさんの、ひきこもりが脱社会的存在ではなく極めて社会的な存在である、という言葉も新鮮でした。

> 『お前は俺たちの苦しみなんて理解できていない。気安く自分を引きこもりと呼ぶな、同様の悩みを持っていると言うな』というような物言いですね。

僕は自身のレスのなかで、『自分の悩みや葛藤をひきこもりの当事者に重ね合わせるのは構いませんが』という断りを入れているように、ひきこもりの当事者以外が悩みを理解できるわけがないとか、共感するななどと言っているつもりはありません。むしろ逆。回りの人の理解がないと、この問題は当事者のなかだけでますます閉塞していつてしまう。そんなことはまったく望んでいません。Aさんのように引きこもりに親和的な立場をとる人は大切です。ようするに『自負』という言葉にカチンときただけなんですね。その点はその後のAさんのレスで了解しました。」(9/29)

「ひきこもりの世界観に閉じこもって何者も受け入れられないかのようなかたくなな印象を、HくんもAさんも僕のレスから受けてしまったようだ。

僕の書き方が悪かったのかな.....反省。ごめんなさい。そんな意図はないので、改めて弁明しておきます。」(9/29)

またAさんの書き込みにGさんもレスを書きましたが、これは次のステップへ、のところで紹介す

ることにしましょう。

9) 次のステップへ

次のステップへの導入が、何人かの人たちによってなされています。まず、Eさんは、次のように述べて、ひきこもりという存在がもつ社会的意味について考察しています。

「何となく気付いてきましたが、ひきこもりは、社会から出た存在(脱社会的存在)ではないような気がします。むしろ社会(他者一般)を恐怖の対象として認識し、自己の行動範囲の自由が奪われているような感じです。つまり、社会によって家族に閉じ込められています。そういう意味では、社会内存在なんです。この病んだ社会の中に閉じ込められており、出られなくなっている。逆説的ですが、社会内存在であるひきこもりに社会参加を促すのは滑稽な感じです。要するに、ひきこもろうがひきこもらまいが、この病んだ社会から出ることができないというわけです。さらに、社会の重力に縛られている度合いは、実はひきこもりの方のほうが強いのではないかと思います。社会なんかどうでもいいやと思って気楽に働いている人の方が、社会を過剰に意識していない分、社会の重力に拘束されていない気がします。

逆説的ですが、ひきこもりは、極めて社会的な存在だと思います。また、対人関係が苦手であるという特徴をもつ多くの人たちが労働社会から疎外されるという現象は、極めて社会的な問題だと思います。労働社会からは疎外されているものの、大きな視点からすると、社会内存在なんです。また、生産の主体ではないが、消費の主体としては市場社会に参加しています。社会システムは、社会的退行としてのひきこもりも取り込むほど、磐石に出来ている差別装置なんです。学歴ではなく、対人関係の能力で人を差別する社会の到来です。怖いです」(9/29)

私は、次のステップへのつながりとして、問題提起をしました。

「社会病理の解明というテーマで私が提起した問題は、ほとんど議論されていませんが、イデオロギーや当事者の問題提起で非常に充実した議論が起きましたね。元々のテーマは別のスレッドを立てることにして、ここでは若干の感想を述べます。当事者の主張を持つ矛盾は人がそれぞれ唯一の存在であるにもかかわらず、言葉はこの唯一性を表現することができず、絶えず一般的にしか主張できないことです。本人は唯一性を述べたいのに言葉は一般性を表現してしまう。だから言葉は人を傷付けるのですね。言ったことが伝わらないし、必ず誤解されます。でも自分をそのまま分かってもらうと言う事は、人が唯一性を持つ以上無理な要求なんですね。とすれば唯一性を持った絶対的他人同士が社会を形成しているこの社会性のうちに同意を形づくるしかない。これは実は人間が社会を形成する時の政治性とでも言うべきものですが、このいい意味での政治性の欠如を感じました。今政治にはマイナスイメージしかありませんが、それは庶民が持つ政治性の衰弱の帰結なんだろうね。この議論でいい意味での政治性の理解が進むことを期待しています。」(9/29)

Kさんからすぐレスがありました。

「>言葉はこの唯一性を表現することができず、絶えず一般的にしか主張できないことです。本人は唯一性を述べたいのに言葉は一般性を表現してしまう。

これは痛感します。Aさんは僕に『なぜひきこもりの代表者のような物言いができるのですか』と問われましたが、僕は当事者という『立場』から個人的に考えた事を主張しただけで、ひきこもりを『代表』したつもりはないんです。当事者の在り様は決して一様ではないし、安易に一般化はできないと考えています。でも『ひきこもり』や『当事者』という言葉を使うと、とたんに強い一般性を

帯びてしまう。

じつは『ひきこもり』と自称することによって、自分の唯一性が一気に後退していく感覚が以前からあって、Gくんが言うように本当なら『ひきこもり』『当事者』という言葉はなるべく使いたくないのですが、個人的な日記ならともかく、他者との意見交換となるとそれも難しい。そこに境さんの『いい意味での政治性』なんだろうけど、これが意味することが僕には難しすぎてよくわかりません。」

(9/30)

他方、Gさんからは、Aさんへのレスとともに次のステップに向けた具体的提案がなされました。

「ちゃぶ台をひっくり返すようなことなただけど、「社会病理の解明」なんてどーでもいい、はっきりいってオナニーだね。社会のここが悪いって追及してみたところで、こっちが出来ることなんて限られているだろうし、簡単に社会が変わると思えん。そんなことより先に、目の前にいる、ひきこもりを助けてやってくれよ。俺なんかの発言は野暮ったくてしゃーないことなただけど、現実的で

観念論を繰り返されるとイライラしてくるんだよ。

>『本物のひきこもり』というイデオロギーを形成しようと躍起になっている。

これは大げさだね。第一ここまで自分勝手な考え方だと、誰もついてこないですよ。自分真理教で終わりです。実際問題、私はこちらでも孤立してたりするわけなんですけど、その程度の自覚ならあるわけです(苦笑)。「社会がひきこもりを蔑み、排他的・排他的に扱ってきた、それに対する怒り」=ルサンチマン、からいかにして距離を取るかっつのは、ライト感覚でない、長期間のひきこもり状態を経過してきた人にとっての重要な問題でもあるのですよ。自身の具体的な例だと、携帯電話持つてただけでも、このやろう！ひきこもりのくせに！なんて感じちゃうわけです。

さて、この感情をどう扱ったらいいもんでしょうかね？いいやり方があったらぜひとも皆様方に教えていただきたいものです。

そうだね、コミュニケーションスキル獲得のための練習としては、偽VS真の対立なんかじゃなくて、お互いの差異を認めた上で、どっちも仲良く友達になれたらいいんだけど(連帯じゃないよ)、なんとか俺自身は、「ひきこもりの当事者だ」って言い方はやめたいと思っている。

>イデオロギーを自認して、強制を強くないNSのやり口は道義的だとさえ言えるでしょう。

これはどうだろうか？パワーの有る、明らかに考え方の違う人は出て行くはずだし、行き場が無くて仕方なしに残ってるような人ってのは、どっかかっていうと、触らぬ神に祟りなし的に、そっと排除されるんでないの？そのやり方に同調してる人なら、責任ある立場をまかされたりなんかして、強制的な場面が出てきたとしても、それは遣り甲斐を感じたりなんかして、むしろそれはその人にとっては自己選択の上の自由だって言ったりするんでない？」(9/30)

これに対して、ニュースタート側の意見として、Lさんが応答しました。

「G君は自分のこと、ひきこもりのこと、ほとんどみーんな見えていると思う。G君の嫌いなこと、ひきこもりを社会病理だと言われること、社会運動としてひきこもりを支援するNS、携帯電話？携帯電話はなぜ嫌いなのかな？ずーっとひきこもっていたい人には、確かに携帯電話なんて必要ない。でも、何とかひきこもりを脱出したくて、友達を作ろうと思っている人には必需品かも。『ひきこもりを助けてやってくれ』これはG君の、多分切実な叫び。でもNSは政治活動であると思込み、ひきこもりを助けようとしている、現に多くの人があかっているのが見えない。G君に言わせると『それは本物のひきこもりではない』らしい。とすると、自分だけが本物のひきこもりかい？

『そっと排除されるんでないの？』

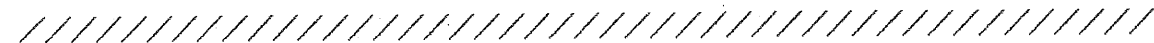
『その人にとっては自己選択の上の自由だって言ったりするんでない？』

G君がNSが嫌い、信用できないならもっと断定的に否定すれば良い。この疑問形は単なる、自分の内にある人間不信をさらけ出しているだけではないか？

確かに『社会病理』であるかどうかは、社会の問題を問うているのであって、一人一人の引きこもり問題の解決とは関係がないかのように見える。一人一人の問題は、鍋の会や農業体験に参加したりすることや、あるいは携帯電話を持つことで解決してしまうかもしれないのだ。それでは、解決し、助けられたとして、引きこもりの原因って何だったの？それを社会的に問うことは、G君にとって敵対的行為なのか？」(9/30)

最近の若い人たち(といっても、ここ10年くらいのことですが)と活動していて気になるのは、自分の居場所をさがして、一寸気にさわることがあると、立ち去ってしまうことです。インターネットではもちろん気に入らなければ放っておけばよいので、この傾向はいっそう助長されているようです。でも、共同で何らかの事業をやろうとするときには、これではうまく行きません。

個々人が、政治性や社会性を失って自閉していつている様子を東浩紀は「動物化」と呼び、『動物化するポストモダン』(講談社 現代新書)でその様態を描き出しました。私はこれを「動物化」と呼ぶのは反対で、自己神格化と呼びたいのですが、自己神格化して自閉してしまった現代人の最先端が引きこもりだったとすれば、次のステップは、政治性を獲得できる場の創造でしょう。このスレッドはすでにこの役割を果たしているのではないのでしょうか。



後記

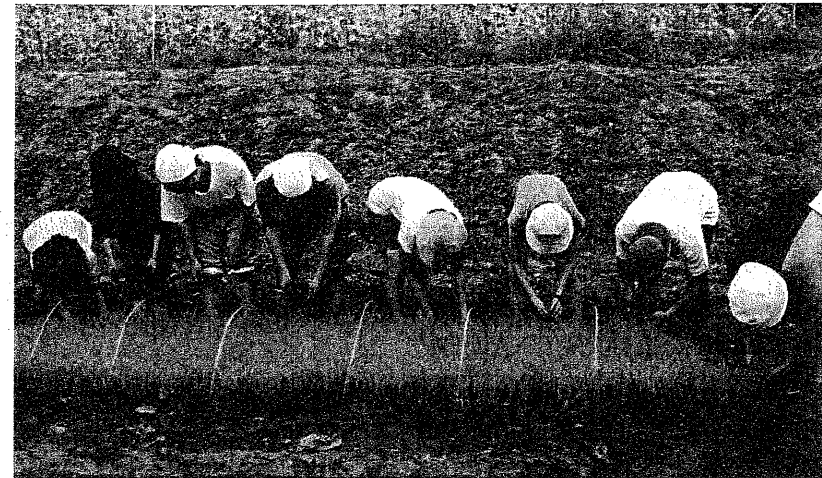
今回はニューススタート事務局関西のHPの掲示板のスレッド「社会病理の解明」の引用と批評です。もともと、木村敏の「あいだ」についてのノートを用意していたのですが、その途中で、掲示板に書き込んだところ、あっという間に沢山の書き込みがなされたのです。ここに引用したのは、ほとんど、が書き込まれた順で、話題をそらすようなものや、テーマからはずれたものは削除してあります。全体について知りたい方は、ニューススタート事務局関西のHP <http://www.ns-kansai.org/> を訪問して下さい。

この一連の書き込みは非常にかみ合ったものになっていて、一つのすばらしい作品になっています。このような出来栄は、そう何度もない、ということで、ニューススタート事務局関西の関係者の方々の了解を得て引用させていただきました。また、書き込んで下さった方々にも大感謝です。とくにGさんの発言が大きな役割を果たしています。

引用が膨大になったので、木村敏について書いたものは次号にまわします。また、W.C.サポートセンターでは、人間塾が開講し、色々な動きがありますが、そのへんの紹介も次の機会にします。

ワーカーズコレクティブ

(資料)



人間塾のご案内

若者が社会へ出て行く時に役立つ色々な社会経験を積む場所として、また幅広い人生経験を経た先輩たちと出会う事で一人一人が何らかの良い刺激を持ち帰ってくればと考へ、この様な企画を立てました。9月から毎月2回で3ヵ月間の日程で講師の方たちを招き行きます。(そのうち一回は毎月第3火曜日午後2時から5時で、場所は高槻市ニュースタートドミトリにて講義が行われ後の一回は外出し実際の現場を体験します。)カリキュラムと日程は作成中です。入会金10000円参加費一回1000円。

農業体験塾のご案内

農業に関心があるなしに関わらず農業体験塾による共同作業を経験する事で若者の社会参加に対して少なからずプラスになるのではないかと、この企画がはじまりました。いや、本当は農業体験よりも農園主の竹村さんという人間と出会える事が参加者一人一人にとって大切なのではないかとも思っています。3月29日から始まったこの農業体験塾も8月16.17日のキャンプで7回を数えました。残るところ後4回になります。新しい参加者も勿論大歓迎しておりますので、どしどし申し込んでください。参加費3000円(一回)



サポートセンター通信

2003.
08.15.
vol.1

起業塾第1期のご案内=スケジュール

(資料)

土曜日 10時～12時 7回シリーズ 富田ふれあい文化センター

目的：自分の働きとして創業・起業を選択する人を対象にした起業塾とします。

自営業、SOHO、企業組合、NPOで開業しようとする場合の基本的なことを学習します。

11月22日(土) {自分の強み弱みの確認(事業を始める前に、やるべきこと)
ビジネスプランとは(何を誰にどう売るのが基本)}

11月29日(土) 売れる商品とは、その体制づくり(エリアマーケティングについて)

12月6日(土) まず資金計画表を作ってみよう

12月13日(土) 事業計画の作成(販売プランから決算まで)

1月24日(土) 開業手続き(開業形態の選択と手続き)

1月31日(土) 創業体験談を聞く

講師 創業・経世コンサルタント 三宅崇昭、最終回 大原正義

入会金1万円、毎回千円。参加者が5人集まれば開講です。

注. 11月15日開講予定

でしたが都合により、22日からとします。

人間塾第1期のご案内=スケジュール(10月～12月)

第1講 10月10日(金) 午後1時半 JR熊取駅集合

午後2時より5時まで、京都大学原子炉実験所の見学 (終了)

第2講 10月21日(火) 午後2時～5時 富田ふれあい文化センター

「原子力発電所の諸問題」

講師 小林圭二さん(元原子炉実験所講師)

第3講 11月7日(金) 午後2時～5時 ドミトリー

「震災後のNPOの活動について」

講師 池田啓一さん(NPO都市生活コミュニティセンター)

第4講 11月18日(火) 午後1時半長田神社鳥居下集合(地下鉄長田)

午後2時～5時 NPO法人被災地障害者センターの見学

第5講 12月16日(火) 午後2時～5時 ドミトリー

「夜回りの会の活動について」

講師 ほんだじなんさん(京都夜回りの会)

第6講 12月25日(木) 午後8時頃から、夜回りに参加。

場所は京都市、集合時間と場所は未定。

(参加費) 全講義参加者を募ります。入会金1万円、毎回参加費1000円です。

(申し込み先) ニュースタート事務局(関西)まで。

W.Coサポートセンターの入会案内

ワーカーズコレクティブサポートセンターは「株式会社ではない働き場のづくり」のサポートをする団体として設立されました。

入会金は自由で入会金の口数に関係なく一人一票の権利があります。

あなたも、「雇われて働く」のとは違う働き方の場を一緒に作っていきませんか。

正会員 入会金 1万円(一口) 年会費 1万円(一口)

賛助会員 入会金 5千円(一口) 年会費 5千円(一口)

お問い合わせ メールアドレス wo_collective@hotmail.com

TEL 080-3139-7820(通話料)

会費振り込み先 三井住友銀行 御京橋支店(店番号517)

口座番号 7452277

口座名 生産者協同組合サポートセンター 代表 石岡弘昭

ワーカーズコレクティブサポートセンター通信 第2号 2003年9月15日発行

発行：ワーカーズコレクティブサポートセンターNPO法人設立準備世話人会

URL http://homepage2.nifty.com/freeter/wo_co/index.html